日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2011年９月25日（日）第1411号(1)

民報ゆうばり

夜間議会に傍聴多数！

くまがい桂子市議の、原発・雇用・まちづくりなどの質問に関心！

「脱原発・自然エネルギーで雇用を…」「夕張再生に、貴重な自然や産業遺産をいかして…」

本年度第３回夕張市議会において、９月13・14日の２日間、一般質問が行われ、共産党くまがい桂子市議ら、６人が質問に立ちました。

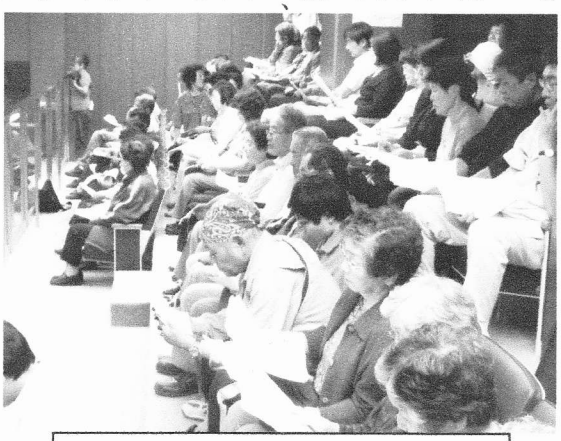
この度の議会は、くまがい桂子市議等の提案で、２日目に夜間議会が実現しました。

この夜間議会には70名もの傍聴者が詰めかけました。

泊で事故が発生したら被害は甚大

くまがい議員は、東日本大震災・福島原発災害をうけて北海道電力泊原発の危険性をとりあげ、「海底にある活断層についての懸念がある中、福島のような事故が発生した場合、風評被害も含め夕張メロン等の農産物被害はどの程度と考えているか」とただしました。

これに対し鈴木直道市長は「周辺市町村だけでなく、本市も風評被害を含め甚大な被害が及ぶと考えられるので、北電や国に対し、しっかりした安全対策を要望したい」と表明しました。



夜間議会を傍聴する市民の皆さん

国に働きかけ自然エネルギーで雇用を

「原発にかわる自然・再生エネルギーを夕張で取り組み、雇用の創出をすべきでは」との質問に、「先の国会で制定された再生可能エネルギー法により、今後の自然エネルギーの普及・拡大をはかるために、市においても、水力発電や未利用地下資源の活用に可能性を見出したい」とのべました。

さらに、「夕張市は国のエネルギー政策の転換によって、大きな影響を受けてきた。再びエネルギー政策の転換により、新たな雇用を作り地域を再生していくことは、日本の復興にも繋がるものとして国にも働きかけたい」と意欲を示しました。

シューパロダム完成に向けてまちづくりを

くまがい市議は「シューパロダムの完成を３年後に控え、まちづくりの一環として周辺整備をどのように考え、南部地区住民のかかえる課題をどのように考えているか」と質問しました。

これに対して市長は、「夕張シューパロダム周辺整備推進小委員会を設置し検討してきたが、財政破綻によって市が負担する事業は廃止になり、その後ダム事業所と協議する中で２００８年に南部まちづくり計画にあるパークゴルフ場が整備された。また、三菱大夕張鉄道保存会が活動している旧南大夕張駅跡地の駐車場整備や地域の歴史的資料を展示しているダムインフォメーションセンターを南部町づくり計画のビジターセンターとして使われる見とおしである」との答弁でした。

国道付替えによる新たな除雪負担はつくらない

また「国道４５２号線の付替え道路は現道に沿って整備し、南部市街地住民の新たな除雪負担とならない」ことなどが確認されました。

「国の天然記念物」「道立自然公園」の地域性を遺産として

さらに、「国道４５２号線は夕張と芦別・富良野を結ぶ観光ルートとして期待されている。貴重な自然や産業遺産として最大限に活用し、南部地域の有効な振興策と考えている」との答弁がありました。

質問するくまがい市議

くまがい議員は、「この地域は、夕張岳を含む富良野芦別道立自然公園の一角であり、夕張岳は山ごと国の天然記念物に指定される、国の宝である。しかし、その夕張岳は自然保護団体が指定管理者となり、ヒュッテの建て替えに人手も予算も足りずにご苦労されている。国のさまざまな助成金や補助金を活用し、将来に禍根を残さぬようまちづくりの一環として、夕張岳の自然や、炭鉱・林業などの歴史を資産として守り育てる、大きな構想でのぞんでほしい。」また、「想定外の大震災にそなえ、貯水量全国第４位のシューパロダムに何かあった場合の避難経路を検討のうえ、住民に周知を」と要望しました。

＊日本共産党夕張市委員会　e－メール　jcp.yubari@gmail.com　HP　http://pub.ne.jp/jcpyubari/　もぜひご覧ください。

参加者魅了！　リンデンコール創立６５周年記念コンサート

9月10日、リンデンコールの創立65周年を記念した演奏会がホテルシューパロで開催されました。

会場は、リンデンコールOB会員やたくさんの来場者で埋められ、また、鈴木夕張市長や小林教育長の姿も見られました。

演奏会プログラムは、混声合唱「あしたにうたう歌」や「花に寄せて」「大地讃頌」など、どの曲も美しいコーラスを響かせ、参加者に深い感動を与えました。

夕張労連第23回定期大会開催

17日、夕張労働組合総連合（夕張労連）は第23回の定期大会をはまなす会館で開催しました。

大会では、まず東日本大震災で亡くなられた方や故後藤泰男建交労夕張支部委員長へ黙祷をしました。

来賓のあいさつでくまがい桂子市議は4年間の住民運動を振り返りながら、公約に掲げた「議会改革」や「夕張再生のための議員活動」を報告、今後引き続き議会への注目と、傍聴を訴えました。

また、同じく来賓の名知道労連委員長からは、東日本大震災で「原子力発電」日米安保条約で「日本を守ってくれる」などたくさんのうそが暴き出されたこと、札幌では自治労や市民団体、安保破棄実行委員会などが脱原発に向けて共同の集会を開催することなどが話されました。

議事に入り、「憲法をいかし、貧困と格差のない社会へ、震災復興、つくろう安全安心な地域、めざそう『原発ゼロ』」の大会スローガンや、闘いのまとめと運動方針などが提案され、全会一致で採択されました。

10.16北炭新鉱大災害から

脱原発を考える夕張市民集会

今年は、新鉱事故から30年という節目の年。そして、3月11日の原発事故は、世界中の人々に原発の恐ろしさを見せつけました。原発は、私たちの人権・幸福追求権・生存権をも奪う危険な存在です。脱原発は今全国的な動きになっています。子どもたちの未来のために、脱原発をご一緒に考えてみませんか？

日　時　10月16日(日)午前10:30～
場　所　はまなす会館
講　師　小野有五氏　北海道大学名誉教授
（泊原発の廃炉をめざす会　共同代表）

＊無料送迎のマイクロバスもでます。
（連絡先　090-2818－5183　熊谷まで）

「国会かけある記」

日本共産党参議院議員　**大門　実紀史**

「歌も物語もない」

大震災から半年、今まで体力勝負で被災地の問題に取りくんできましたが、これからは知力も大切と、この間、手あたりしだいに復興にかんする本を読んでいます。

その中の1つ、民俗学者の赤坂憲雄さんの近著「東北再生―その土地をはじまりの場所へ」は、大震災を経験した私たちが、東北だけでなく未来の日本社会をどう描いていくのか、多くのヒントを与えてくれます。赤坂さんは「原発は、炭鉱とちがって、地域に歌も物語も生まなかった」といいます。

構造改革でズタズタにされ、無機質な原発に翻弄（ほんろう）されてきた地域社会を「歌と物語」の生まれるまちに変えていかなければなりません。

テレビでは「がんばれ、ニッポン」の掛け声があふれ、被災地どこでも「がんばろう○○」の張り紙が見られます。しかし津波で家も工場も失った宮城県石巻市の水産加工業の社長さんは、「何に向かってがんばればいいのか、教えてもらいたい」、風評被害に苦しむ福島県南相馬市の牛乳会社の社長さんは「先が見えれば、がんばれるのだが」といわれました。

言葉はむずかしい。たしかに「がんばろう」のはんらんは、厳しい現実を空疎におおい隠しているように思えたり、「きずな」や「なりわい」という言葉も、散乱したがれきの前では情緒的すぎると感じることがあります。

人ががんばるためには、標語だけでなく、具体的な見通しが必要です。それでも、「歌と物語」は、すてきな言葉だとおもいました。